

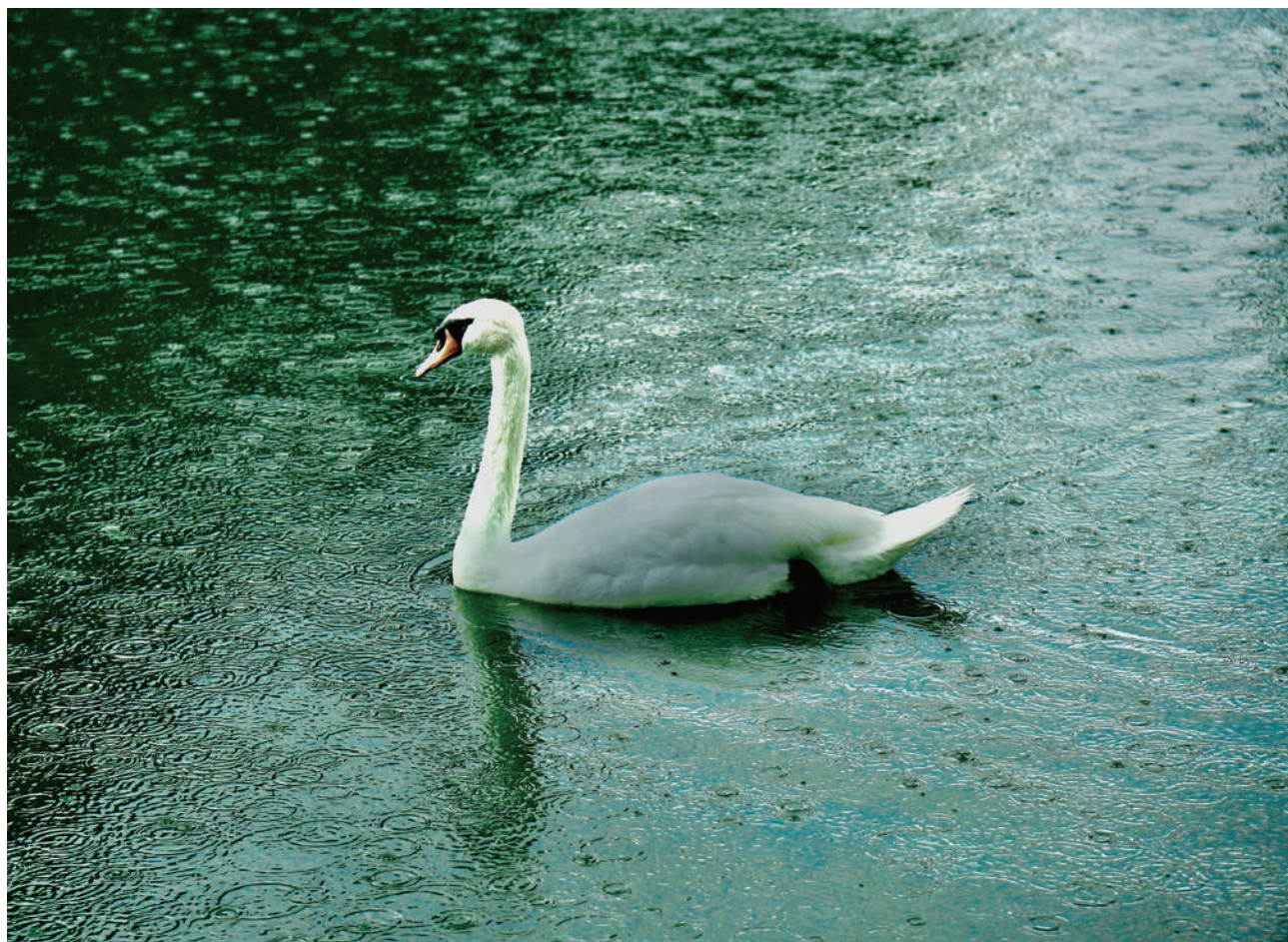
善隣

No.547 通巻814

2024年（令和6年）5月1日発行（毎月1日発行）

2024

5



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣

目 次

2024年 5 月号

公開講演会記録

ポスターに見る 観光国家・満洲の実像……………田島奈都子 2

コロナ以降の北朝鮮の動向

―離隔から再びの開放へ……………北岡 裕 10

福島原発汚染処理水放出差止訴訟について

―本当に放出しなければいけないのか ……………河合弘之 20

陶々俳壇 ……………馬場由紀子 29

中国ウォッチング ……………編・訳 上松玲子 30

協会通信・会員だより・同好会だより…………… 32

2024年 5 月の行事予定…………… 33

— 善 隣 第547号 通巻814号 —

2024（令和6）年 5 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051
FAX 03（3573）1783

発行人 藤沼弘一

編 集 原田克子

編集協力 朝 浩之、山谷悦子

印刷所 (有)ゆにおんプレス
TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館…………… 32

（姜晋如、村田嘉明）

— 。 — 。 — 。 —

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

ポスターに見る

観光国家・満洲の実像

青梅市立美術館学芸員 田島奈都子



1. はじめに

戦前期に満洲と呼ばれた、現在の中
国東北部に対する現代日本人の認識は、
国策的な移民の推奨を受けて大量の日
本人が入植したものの、戦争末期と戦
後の混乱によってその多くが犠牲になっ
た、悲劇的な土地というものであろう。

ところが、戦前期の日本人にとって
の満洲は、台湾や樺太、朝鮮と同様に
パスポートなしに行ける最も近い外国
であった。しかも、同国には多様なルー
ツを持つ人々が暮らしていたことから、

前述した地域よりも国際色が豊かであ
り、日本人が憧れる西洋的な要素も兼
ね備えていたことから、多くの日本人
が観光目的でも渡っていた。

そのようなことを踏まえて、本稿で
はあまり語られることのない満洲の観
光地としての側面を、現存するポスター
を中心に紹介していくことにしたい。

2. 南満洲鉄道株式会社と観光

戦前期の中国東北部の開発は、一九
〇七年に設立された南満洲鉄道株式会
社（以降、満鉄）によって長らく担わ

れてきた。同社は社名が示す通り鉄道
会社であり、旅客の輸送も当初から担
っていた。しかし、長距離の鉄路は、
同社が開発した鞍山炭田で採掘された
石炭などを運ぶ貨物路線としても利用
され、その運賃が同社の収益となっ
ていた。

もっとも、こうした満洲から産出す
る豊富な天然資源に対しては、欧米列
強も高い関心を示していた。このため、
満鉄は会社設立から十年が経った一九
一〇年代後半から、毎年大判のポスタ
ーを製作するようになるが、それらは一
九一八年の真山孝治による『SOUTH

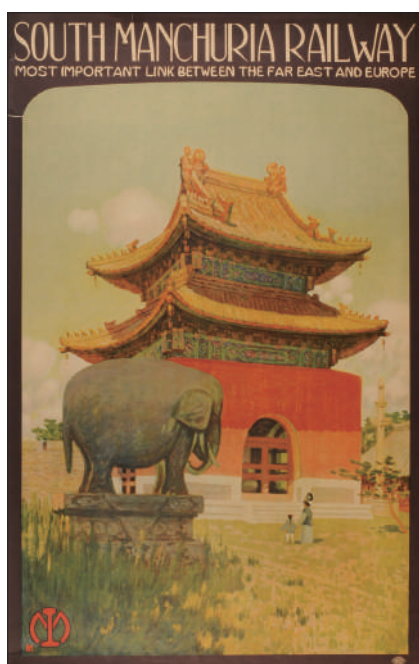


図1 1918年 真山孝治《SOUTH MANCHURIA RAILWAY (城門と象の置物)》函館市中央図書館蔵

事業者として、旅行者に対し一層の利便性や快適性を与えようとしていたのも確かであり、その様子は一九一九年頃の北蓮蔵による《THE SOUTH MANCHURIA RAILWAY

東髪姿の日本人女性を主題とした本作は、一見すると同時代のビール会社や百貨店のポスターと同じように見えてしまう。しかし、この時代以降の交通関係のポスターにおける女性や子どもは、安全快適に移動が可能であることをうたう象徴であった。しかも、彼女のいる一等車の車窓越しには、満洲特有の風景も垣間見え、同地への憧れを抱かせることも忘れてはいない。ただし、本作においてより注意しなければならぬのは、画面左下の囲みで示された、日本と満洲とを結ぶ大連港の

MANCHURIA RAILWAY (城門と象の置物)》【図1】のような、沿線で見られる景物や民俗を題材にした、「観光」的な側面が強調された作品であることが多かった。

旅行代理業が十分に発達せず、各地方自治体もそうした活動に対して、必ずしも機能的に動けなかった戦前期の日本においては、鉄道会社や海運会社といった旅客の「足」を担う会社が、観光事業者としての役割を果たしていた。したがって、満鉄が【図1】のような作品を製作したり、一九一八年に満洲への旅行と移民を斡旋する満鉄の専門機関として、満鉄鮮満案内所を開設したりする行為は、理にかなった活動であった。しかし、同社の大判ポス

ターのほとんどが、本作のように旅情を誘うようなデザインであり、なおかつ表記言語が英語、もしくはそこに日本語(中国語としても通用)が併記された作品であった理由は、同社が国際的な企業であると同時に、同社を

質的に管轄下に置く当時の日本政府が、欧米に対しては同社を、満洲と呼ばれた中国東北部の資源開発を含む各種開発の中心企業ではなく、純然たる旅客輸送を担う鉄道会社であると、思わせたかった面も多分にあった。



図2 1919年頃 北蓮蔵《THE SOUTH MANCHURIA RAILWAY (円窓の美女)》函館市中央図書館蔵

(円窓の美女)》【図2】にも見て取れる。

様子である。

船舶と列車が向かい合うこの図は、同港を発着する両者のダイヤが連動していることを示しており、会社の垣根を超えたこの連携は、時間的な損失を最小限に抑えたい旅行者にとっては、一枚の切符で船舶から鉄道へ乗り継げることを含めて、ありがたいサービスとして好評を博した。

3. 一九三〇年代の満洲渡航

満洲への日本人の渡航は、一九三二年の満洲国の建国と、国策としての開拓移民の入植が相まって、一九三〇年代に入ると急速に増加した。後者のほとんどは、三等の片道切符を使つての渡航であった。しかし、満洲の建国に携わる人々や、開発と発展の著しい現地を訪問・視察する人々の中には、それなりの地位や身分を持つ人物もいた。こうした状況を受けて、満洲航路は急速に拡充が図られることになった。従来この航路に充当されていた船舶の大部分は、別の航路を引退した年式

の古いものであった。しかし、大阪商船株式会社は利用者の増加を受けて、一九三五年には吉林丸（六七八三トン）と熱河丸（六七八四トン）を、一九三七年には黒龍丸（七三六九トン）と鴨緑丸（七三六三トン）といった、大型船を新たに建造したうえで配船しており、この結果一九三〇年代後半の日満航路は、一か月当たりの往復の便数や旅客定員数が大幅に増加した。

一方、この時代になると一九三三年の吉田初三郎による《日本海中心時代来る 北日本汽船株式会社》【図3】が示すように、福井県や富山県、新潟県などに所在する日本海側の港から出発し、清津をはじめとする現在の北朝鮮の港に到着し、そこから陸路で満洲に入るルートへの拡充も図られた。かつての北前船の航路上に位置する日本海側の自治体は、鉄道網の整備による海上輸送の減退によって、経済力や

存在感を急速に失いつつあった。このため、今後の発展が見込まれる満洲とつながることに對しては期待が大きく、実際にこの航路は移民や渡航にも大いに利用された。

ところで、満洲への渡航は他国へのそれと大きく異なる場所があり、それが何かというと「団体」を基本としていた点にある。通常、各種旅行案内における運賃は、一人当たりの金額が記された後に、団体をはじめとする各種割引料金が紹介される。しかし、日満航路の料金は、団体に対する料金の説明が先になされ、その後一人当たりの料金が案内される場合が多かった。



図3 1933年 吉田初三郎《日本海中心時代来る 北日本汽船株式会社》
函館市中央図書館蔵

日本から満洲への渡航者の主体が、開拓移民であったことを考えれば、団体料金を先に記した方が、案内書としても利便性が高く現実的だったのかもしれない。ただし、移民を除いても日滿航路の利用者には、常に団体が多かったのも確かであり、中でも顕著だったのが三等利用の場合で、個人旅行者と比べて、大幅な運賃の割引が行われる学生の修学旅行であった。

例えば、一九三二年に発行された『大陸を歩みて』は、東京府立第一商業学校（現、東京都立第一商業高等学校、渋谷区所在）における、過去六回にわたる修学旅行の記録をまとめたものである。五年生の生徒（当時は男子のみ）がほぼ全員参加した修学旅行のルートは、時代によっても違いがあるものの、一九三〇年五月末から実施された第六回目に関しては、東京から鉄道で下関まで行き、そこから関釜連絡船に乗って釜山に入り、以降は朝鮮半島を慶州、大邱、京城、平城と周遊し、そこから満洲の安東に進み、撫順、奉天（現、瀋陽）、長春、哈爾濱、吉林、

湯崗子、周水子、旅順、大連、青島、上海、杭州、上海、南京、蘇州、上海と、ここまでは陸路を鉄道で移動し、上海から船舶で長崎に帰国し、そこからは再び鉄道で神戸、三宮、京都と進み東京に戻る、全日程が約一か月にわたるものであった。

移動に時間がかかることを差し引いても、同校の修学旅行の日数が、短期留学に近いものになっていた理由は、この旅行が卒業後の進路を見据えたものであったことにある。このため、参加する生徒も真剣であったが、彼らを受け入れる外地の各機関も、内地の有名企業から引く手あまたの同校の優秀な生徒を、この機会に獲得すべく必死であった。事実、釜山駅や奉天駅などの主要駅においては、地元名士でもある駅長が生徒たちを出迎え、ジャパン・ツーリスト・ビューロー（現、JTB。以降JTB）の社員と三井物産株式会社（の駐在員が、ほぼつきっ

きりで彼らを案内し、彼らも各地の大企業や領事館、商工会議所などを表敬訪問し、その折にはかなり職位の高い人物が、生徒への応対をしている。

もちろん、一九二〇年代後半以降になると、日本国内においても観光開発が進み、新中間層と呼ばれるサラリーマン世帯も、年に一度程度は泊りがけの家族旅行を楽しめるようになった。したがって、彼らよりも経済的余裕のある層は、より遠くに長期の旅行を楽しめるようになり、そうした層にとつての満洲は格好の旅行先と見なされた。その実態を示すのが、一九三二年の《夏休に満洲へ 大阪商船》【図4】であり、大阪商船株式会社はこの時代



図4 1932年《夏休に満洲へ 大阪商船》名古屋市博物館蔵

になると長期休暇が取りやすい夏季に、二週間程度で満洲の主要都市を巡るようなパッケージツアーを売り出した。本件に呼応した旅行案内によると、最も一般的な周遊ルートは、海路で大連に上陸し、同地で二日程度過ごした後、旅順、営口、湯崗子温泉、撫順、奉天、新京（現、長春）と巡り、再び奉天に戻ってそこから大連に出て、海路で日本に帰るというものであり、こうした企画が数年間行われたことを考慮すると、それなりに好評を博したものと思われる。

さて、従来の日本から満洲への渡航は基本的に海路であり、その後は鉄道を利用して目的地に移動することになるが、一九三二年に満洲国が成立すると満洲航空株式会社（以降、満航）が東京と満洲国の首都新京を結ぶ定期路線を就航させたことから、これ以降は空路が満洲への新たな交通手段に加わった。当時、東京から新京に行く最も一般的なルートは、神戸もしくは門司までが鉄道で、そこから大連までが船舶、その後は再び鉄道となり、それらの組み合わせにもよるが四泊五日くらいの時

間を要した。

それに対して羽田から新京へは、途中に京城（ソウル）で補給を受けるものの、一九四〇年に運行が開始された特急便であれば、約九時間で結ばれていたのであるから、多忙な政治家や軍人の中には、

飛行機を移動手段として活用した人物もいた。しかし、一便あたりの輸送人数が十人程度、運賃が全ての列車と船舶を最安の三等で利用した場合の四倍近くにのぼるとなると、残念ながら戦前期の飛行機は日満間を結ぶ主要な交通手段にはなれなかった。

もっとも、飛行機は手紙や小包を運ぶ手段としても活用されていたことから、羽田と新京を結ぶ定期路線の開通や高速化は、両国間の情報のやり取りを迅速化させた。また、当時の飛行機や航空会社は今日以上に、その国の国力を象徴する存在であり、建国内もな



図5 1938年《安全、快適、空之旅》満洲航空株式会社 モデル：李香蘭
名古屋博物館蔵

い満洲国が独自の航空会社を持ち、日本と定期路線を持つことには、その自体に政治的意味合いが大きかった。したがって、日中戦争が開戦した翌年の一九三八年の満航のポスターが、「日本語が堪能な満洲人」ということになっていて、満洲映画協会を代表する女優・李香蘭（山口淑子）を主題にした《安全、快適、空之旅 満洲航空株式会社》【図5】であったことや、日本国内においては戦争の長期化によって市民生活がかなり厳しくなっていた一九四三年になっても、同社が中西徹による大判フルカラーの《満洲航空株

式会社》【図6】を世に出せた背景には、政治的な力や思惑が働いていたと見るべきである。

当時の満航は満洲国にとって、満鉄と同様の国際社会に出して遜色のない、国家を代表するフラッグ・カンパニーだった。ただしそれゆえに、常に表と裏の顔を合わせ持ち、恩恵を受けると同時にある種の義務も負わされ、日本の敗戦によって会社の命運も尽きることになった。

4. 満洲国内の観光需要の開拓

前述したように、一九二〇年代後半以降の日本においては、旅行が余暇生活を充実させる手段の一つとなってお



図6 1943年 中西徹《満洲航空株式会社》名古屋市博物館蔵

り、そのような内地の習慣は日本人が多く暮らす国や地域においても、徐々に広がっていった。特に満洲の場合、訪ねるべき場所は無限に存在したうえ、日本に本社を置く企業の満洲駐在者の給与額は、特別な手当てが加算されたことから国内在勤時よりも高く、物価の安い満洲での暮らしは、経済的な面では相対的に日本にいたるときよりも豊かになりがちであった。

労働者であると同時に可処分所得の多い消費者でもある、満洲在住の日本人の旅行需要を目覚めさせ、それを獲得しようとする行為は、海を渡ってくる旅行者を相手にするよりも客単価としては低かったと思われる。しかし、

一九四五年の終戦時に満洲に在留していた日本人の数が、一五五万人であったことを考えると、対象者が多いだけに一人一人

から得られる利益は薄くとも、積算するとかなりの利益となる可能性が高い。ましてや、満洲国内の在留邦人は一年を通じて旅行者になれば、彼らは街中の商店や飲食店にもお金を落とすとしてくれることから、地域全体の活性化や底上げにとっては実はありがたい存在でもあった。

したがって、そうした事実気付いた自治体の中には、大連市産業課のように自らポスター用原画を広く募集し、当選作をポスター化することを通して旅客の誘致を図ることもあった。その実態を示すのが、一九三五年の《大連》【図7】であり、本作は同年実施されたポスター懸賞募集の一等当選作であり、作者は大連在住の猿田俊夫であった。



図7 1935年 《大連》
名古屋市博物館蔵

さて、満洲観光を促したものとして旅行雑誌を忘れてはならず、中でもJTB大連支部が一九三四年六月に創刊した『旅行満洲』は、同地に特化した専門誌だっただけに、その果たした役割は大きかった。一九三七年四月発行の伊藤順三が描いた『旅行満洲』第四巻第四号表紙【図8】がその最たる例であるが、同誌の表紙には毎号旅情を掻き立てるような写真や絵画が採用された。そしてそれに続く巻頭ページには観光地を写した写真が数枚紹介され、巻末には日満間を結ぶ主要な航路や鉄道、飛行機の時刻表が必ず掲載されていたことから、同誌は文字通りの旅行

稿を介した経済的な面のみならず、記事の執筆や挿絵の揮毫に満鉄の社員が従事するなど、同社からかなり広範囲な協力を仰いでいた。なお、満鉄は一九三四年に世界に誇る高速列車として、大連と哈爾濱の間にあじあ号の運航を開始しており、以降、同社はこの列車を自社の顔として積極的に売り出した。しかし、満鉄の力をもっとしても広大な満洲を、鉄路だけで網羅することはできず、地域の実



図8 1937年4月 伊藤順三 『旅行満洲』第4巻第4号表紙

雑誌であった。ただし、同誌には同時に文芸やスポーツ、美術、映画、祭郷土玩具などに関するページも毎号設けられていることから、その実態は旅行を中核とする、満洲の文化全体を幅広く紹介する総合雑誌であった。ちなみに、同誌は広告の出

情に合わせて路線バスや自動車、船舶なども運航していた。その一端を示すのが、ソ連との国境沿いの松花江（スンガリー）などの水運を紹介する、一九三九年以降の『三江は招く 満鉄北満江運局』【図9】であり、この航路は満洲北部の物流を支える大動脈であると同時に、夏場は観光遊覧船としても人氣が高く、その様子は『旅行満洲』にも写真付きでたびたび紹介された。

5. 満洲観光の終焉

一九三七年七月に日中戦争が開戦となり、九月から国民精神総動員運動が



図9 1939年以降『三江は招く 満鉄北満江運局』名古屋市博物館蔵

開始されると、以降の日本においては市民生活にも戦争による影響が顕著に出るようになった。観光に関して述べると、それまでのポスターはその土地の名所旧跡を題材にした、旅の楽しさを前面に押し出すようなデザインであった。しかし、戦時期には単なるレジャーや物見遊山的な観光がはばかられ、社寺仏閣への参詣は武運長久を祈る場として、また登山や水泳などは体力増強や心身鍛練のための手段としてのみ認められることになり、ポスター上にもそのようなキャッチコピーが付加されるようになった。

それに引き替え満洲の場合は、満鉄にしても海運会社にしても一九四一年までは、従来通りの観光的色彩の強いポスターを製作しており、一九四三年に中西徹による《満洲航空株式会社》【図6】が世に出されていたことを考えると、日本国内よりも旅行に対する締め付けは緩かったと考えられる。そしてそれを裏付けるように、一九三四年六月に創刊された『旅行満洲』は、一九三八年四月発行の第五巻第四号からは

『観光東亜』、一九四三年七月発行の第十巻第七号からは『旅行雑誌』と誌名を変えながら、一九四四年八月発行の第十一巻第八号までは発行され続けた。

もっとも、最末期の同誌はページが最盛期の半分以上となり、多くの読者は同誌から観光情報を得ていたのではなく、戦争の影響から不規則にながちな、交通機関の最新の運行情報を得ていたものと思われる。それでも、同誌がこのような時期まで編集発行できた背景には、その担い手として満鉄が深く関与していたこともあるが、日中関係が悪化する中においては、観光が両国の友好関係をつなぐ最後の手段であったことが大きい。そのような意味においては、同誌の終刊は一つの雑誌の終わりというよりも、その後の歴史的展開を合わせて考えると、日中関係の完全な破綻を象徴しているようでもある。

6. おわりに

戦前期の日本側からの満洲観光やそれに伴う開発には、立場の違いを悪用

した搾取的な面が少なからず存在し、それらが日本人と現地の人々との間における、不信や軋轢につながることもあった。それでも、観光が草の根的な友好関係を築く最初の一步や、最後の砦となることは現在でも変わりがなく、コロナ禍で落ち込んだ日中間の観光需要が復活すること、そしてそれを通して冷え込んだ両国の関係が、改めて良好になることを期待してやまない。

(2023年3月6日・公開講演会)

筆者略歴(たじま・なつこ)

東京都出身、筑波大学大学院博士課程芸術学研究科満期退学。現職は青梅市立美術館学芸員。

専門は戦前期の日本製ポスターを中心とするデザイン史であるが、戦前期に日本の印刷会社が上海に進出し、現地でポスター製作を担っていたことから、2010年代の10年間、集中的に戦前期の中国製ポスターの調査研究を行った。本発表と関連する著作や論文が多数ある。

公開講演会記録

コロナ以降の北朝鮮の動向

— 離隔から再びの開放へ —

著述業・訪朝コーディネーター 北岡 裕



■ コロナで一変した世界と北朝鮮

コロナの前と後で世界は一変しました。北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国でもコロナは「建国以来の大動乱」と呼んだほどの衝撃でした。北朝鮮は究極のゼロコロナ政策、国境を封鎖し人の流れと貿易を完全停止することを選び、2023年に開放に転じました。本日は大きく変化する北朝鮮情勢についてお話しさせていただきます。

■ 北朝鮮の非核化は難しい

なぜ北朝鮮はミサイルの発射を続けるのでしょうか。2021年に発表した「国防科学発展及び武器体系開発5か年計画」に沿って北朝鮮は動いています。そして2017年には核武力の完成、事実上の核保有宣言をしました。北朝鮮の非核化は難しい。「核放棄は国を亡ぼす」というリビアやウクライナの教訓があるのは想像に難くありません。そして大きな通常兵器の差。例えば航空戦力は米韓に比べ機体は古く燃料不足のため練度も低い。この差を無力化するのが核です。核武力建設と経済建設の並進路線（2018年に

終了宣言）を北朝鮮は進めてきました。核開発と経済建設を同時に行うことと解説されることもあります。北朝鮮の案内員の説明は違います。訪朝すると「未来科学者通り」のような大規模開発された地区を案内されます。核を持ったことで通常兵器に費やしていた資材、人材と資金を経済建設に回すことが可能となった、その結果が大規模開発だということです。工事現場を見ると確かに朝鮮人民軍の兵士が多く働いていました。つまりすでに北朝鮮の経済は核ありきになっているのです。そして朝鮮総連の機関紙『朝鮮新報』の元記者

が北朝鮮の地方都市を訪れたときの話です。現地の人「90年代後半の未曾有の経済難（苦難の行軍といえます）でここでも多くの人が死んだ。でもわが国は核開発を続け、彼らの犠牲があって現在核保有国になれたのだ。非核化なんてあり得ない」と話したそうです。つまり核兵器にはシンボルとしての意味もあります。さらに北朝鮮は憲法に「責任ある核保有国として戦争を抑止し、地域と世界の平和を守るために核戦力を高度化する」という文言を盛り込みました。こうして法的にも不可逆的な環境が作られてしまった現状では、北朝鮮の非核化は難しいといわざるを得ません。

■なぜ北朝鮮は崩壊しないのか

厳しい統制と監視。政治犯収容所や公開処刑。恐怖政治により崩壊しないのではと考える人は多いでしょう。

少し視点を変えてみましょう。朝鮮民族の姓の種類はわずか300ほど。かつ特定の姓に偏りがあります。また民族発祥の地名を本貫と呼び、同じ金

氏でも金海金氏、安東金氏は本貫が違う他の一族とされます。韓国人は自分の本貫を知っています。私の韓国語の先生も4、5歳のころからあなたの本貫は○○で、族譜（系図）の位置はここだと祖父母に教えられたそうです。特に意識するのは恋愛と結婚の際。かつて韓国では8親等以内の血族の結婚が不可であり、97年に憲法裁判所で違憲判決が出るまで、8親等を超えても同じ本貫同士の結婚はできませんでした。今でも意識する人は多く、気になる異性が同じ苗字だったらまず本貫を確認します。また縁のない土地に住んでも本貫が同じ人たちでつながることができます。休日に遊んだり、仕事を融通しあったり。本貫と族譜は今も人間関係の柱として韓国では機能しています。

ところが北朝鮮では本貫は分断直後に廃止されたそうです。北朝鮮で人にかうたばに本貫を聞いて回ったのです。「知らない」と答える人が多く、「本貫とは何ですか」と私に聞く人もいました。韓国人の感覚からするとあ

り得ない発言です。

北朝鮮には配給制度があります。例えば子どもが学齢になると制服と鞆、教科書などが無償で「父である金正恩元帥様からの贈り物」として渡されます。実の父親がこれをそろえるのは難しい。さらに金日成主席は日本から独立を勝ち取り、金正日総書記は自主独立を守り、金正恩総書記は今も米韓の脅威に立ち向かっているなどと徹底的に教育される。実の父親と比べその甲斐性と実績は圧倒的です。民衆蜂起が起きない一つの理由は、北朝鮮は既存の人間関係の柱を壊し首領を国父として朝鮮労働党を母とする疑似家族国家を作り上げたこと。首領に弓を引くことは父殺しのタブーとして、強烈な抑止力になる。そのような牢固な体制と徹底した教育を、建国以来76年続けてきたこと。それが強く作用しているからといえるでしょう。

■核とミサイル以外の北朝鮮

核とミサイルだけに注目しがちですが、金正恩時代になって教育に力を入



科学技術殿堂。金正恩時代の教育強化を象徴する建物（2016）

れていることも注目です。義務教育は11年↓12年となり、科学技術殿堂や平壤国際サッカー学校の建設など教育に力を入れています。また、北朝鮮の識字率は100%に近いとされています。教育の強化が体制の強化につながることを理解しているのでしょう。

そのため中国の縫製工場で働く北朝鮮の出稼ぎ労働者は基礎教育レベルが高く人件費も安く、勤勉で人気です。勤勉さも北朝鮮の注目ポイントです。もし日本の会社にくるに仕事もしない



船橋メリヤス工場で働く女工。その勤勉さは魅力（2013）

ぐうたら社員がいたら、叱責、減給を経てやがて解雇されるでしょう。でもぐうたら社員の立場で考えると「あの職場は合わなかったな。次探そう」で終わります。

しかし北朝鮮ではぐうたら社員の存在は大ごとになります。国や党に対しよくない考えを持っているのでは、と生活総和と呼ばれる会で徹底的に自己批判、相互批判されます。場合によっては炭鉱のような厳しい職場に異動させられます。ペナルティが大きいのです。

また金正恩時代になって目立つのは国産日用品の充実です。日本人訪朝者にも大人気の大同江ビール。日用品のデザインも以前より洗練されました。一番人気は化粧品。在日コリアンの男性は現地で仲良くなった女性に北朝鮮国産の化粧品をプレゼントするそうです。その結果「化粧品ならA社、お菓子ならB社、ビールは大同江ビール」という、嗜好とこだわりのある消費傾向が生まれています。そして携帯電話の普及。朝鮮総連の機関誌『朝鮮新報』は、2024年3月1日付記事で、2018年現在で600万〜1000万台が普及していると伝えました。スマホタイプで外国語辞典や百科事典、ゲームのアプリ、気に入った相手がいたらBluetoothで接続し連絡先を交換する機能もあるのだとか。平壤市内でも携帯電話で話しながら歩く人の姿は普通になりました。

■ アメリカ、韓国との関係

朝鮮戦争以来の仇敵といえるアメリカとの関係。平壤の戦勝記念館を訪れ

た際、案内してくれた若い女性兵士はアメリカのことを終始「米帝の野郎」と呼びました。若い女性でも「野郎」と呼ばないといけないのです。

トランプ大統領の就任当初は「ロケットマン!」「老いぼれ!」と汚いことばの応酬が目立ちましたが米朝首脳会談は3回行われました。トランプ大統領はその独特の性格も合わせ北朝鮮の好むトップダウン型の指導者でした。

2019年2月の第2回米朝首脳会談で北朝鮮は人民生活に関する経済制裁解除と引き換えに、寧辺の核施設を廃棄する切り札を切りました。このことはすぐに北朝鮮国内にも伝わり、兵士や人民から反対の嘆願書が多く届いたといえます。トップの判断への異例の反応です。しかしアメリカは乗らなかった。ここが分岐点でした。その後交渉は進まなくなりました。

またこれまで韓国の大統領が保守派か進歩派かによって南北関係は大きく変わりました。尹錫悦大統領は保守派、北朝鮮に対して厳しい姿勢で臨んでいます。文在寅大統領は北朝鮮との対話、

融和政策を進める進歩派でした。金正恩総書記と文大統領は2018年に3度南北首脳会談を行いました。その後南北関係は悪化。北朝鮮は2020年に南北共同連絡事務所を破壊しました。2024年1月に金与正朝鮮労働党中央委員会副部長は尹大統領を「自衛的な、当為的な不可抗力の軍事力を培うことに大きく『貢献』した『特等功臣』」、文大統領を「本当に聡明で秀でて、狡猾な人であった」と痛烈に皮肉のメッセージを表明しました。

■ 中国との関係

朝鮮戦争を共に戦った中国との関係は「唇亡齒寒」の関係といわれます。中国はコロナによる国境封鎖前、対外貿易で9割を占めた命脈を握る存在です。しかし金正恩時代になってから関係は微妙でした。金正恩総書記の公式デビューから中朝首脳会談まで8年かかり、

習近平国家主席は先に韓国の朴槿恵大統領と首脳会談を行っています。その理由には北朝鮮の核開発への不快感や、金正恩総書記の義理のおじにあたる張

成沢氏の処刑、金正恩総書記の異母兄、金正男氏の暗殺があるとされます。張氏は中国の窓口的存在といわれています。そして北朝鮮国外での金正男氏の生活には中国の援助があったようです。金正恩総書記とその一族を「白頭血統」と呼びます。白頭とは中朝国境にある聖山、白頭山のことを指します。万が一北朝鮮の国内情勢が不安定になり、中国が介入したとして、情勢が落ち着き新たな政権を作る際のトップは白頭の血統でないと落ち着かない。中国は金正男氏にその役割を期待していたと考えられます。張成沢氏と金正男氏。中国にとってのキーマンを殺されたことへの不満が冷え切った関係につながったのは想像に難くありません。

現在、関係はよくなっているようですが市民感覚は別のようです。訪朝経験の豊富な在日コリアンによると、90年代後半の未曾有の経済危機の際、中国も北朝鮮に食糧支援を行いました。送った穀物が実にひどかった。家畜の飼料か!という食糧に人民たちは怒ったそうです。また日本でも段ボール餃

子事件に象徴される中国食品への批判が高まった時期がありました。が、同時期北朝鮮でも中国製食品を食べた子どもが亡くなる事件があり、強い不信任感が広がったそうです。金正恩時代になって北朝鮮が日用品の国産化を進め、また中国製のコロナワクチン提供を断った理由は市民の声なのかもしれません。また中国人観光客は平壤訪問の際、羊角島国際ホテルに多く宿泊します。このホテルは外国人観光客が多く泊まる高麗ホテルや普通江ホテルと比べ、大同江の中州にあり市内へのアクセスがよくありません。北朝鮮の案内員に聞くと「中国人はうるさいしマナーも悪い。だから羊角島国際ホテルに泊めている」と笑って話してくれました。国と国との関係と市民感情はまた別のようです。

■ 日本との関係

1960、70年代を中心に多くの在日コリアンが帰国事業で帰国しています。北朝鮮国内では厳しい環境に置かれたこともあったそうですが、2022年に海外同胞権益擁護法成立という

大きな動きがありました。在日同胞の権益を擁護保障するこの法律の成立の背景には、北朝鮮は公式には認めていませんが、金正恩総書記の母親の高容姫氏が帰国者という理由が推測されます。大阪・鶴橋に生家跡とされる場所が今も残っています。

人が動けば物が動く。帰国者と共に持ち込まれた、仕送りされた日本製品は北朝鮮国内でも高く評価されました。今もユニクロの服、医薬品などが人気です。ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社（シンガポール法人が北朝鮮にジュースを輸出しています。北朝鮮ではジュースは단물（タンムル＝甘い水の意）と呼ばれるのですが、このジュースはそのままポッカと呼ばれ人氣ぶりがうかがえます。

日朝関係が最も接近したのは1990年、金丸信元副総理の訪朝の年です。その後北朝鮮では国交正常化への期待から日本語ブームが起こり、平壤外国語大学には日本語学部ができました。北朝鮮がトップダウンの交渉を好むのは、金丸元副総理の訪朝のときも同じで、

金日成主席は親しい関係の社会党の田辺誠委員長を置き去りに金丸元副総理とのトップ会談を行いました。朝鮮総連関係者によると小泉純一郎、安倍晋三両政権の評価も成立当初はよかったそうです。トップダウンの交渉が期待できることがその理由です。一方で友好的な関係の社民党も加わっていた民主党政権の評価は芳しくなかったそうです。「議員の出身母体がさまざまな民主党政権との交渉で、トップダウン交渉の期待は難しい」という見方が理由です。

その後拉致問題解決ありきの日本、過去清算ありきの北朝鮮との会談は平行線をたどります。現地の案内員と話すと、北朝鮮は金正日総書記が拉致を認め謝罪した、完全無欠の指導者である将軍様が頭を下げたことへの衝撃と、これだけ譲歩したのだから日朝国交正常化は進み、賠償金も入ってくると純粹に信じていたと感じます。この読み違いが大きかった。その後2014年のストックホルム合意から拉致問題の再調査が始まりました。その調査報告の中で2名の拉致被害者の生存情報の提

示があったものの、日本側はその報告書を受け取らなかったとの報道もあります。2016年に北朝鮮の核実験と弾道ミサイル発射に対する日本政府の独自制裁から再び交渉は止まり、2023年は2度ほど非公式の接触がありました。大きな進展はない状況です。

■ロシアとの関係

旧ソ連は北朝鮮の経済を長く支えてきました。かつては富める北、貧しい南とまでいわれていました。ソ連崩壊が北朝鮮経済に大きなダメージを与えます。さらにショックだったのは1990年のソ連と韓国の国交樹立です。

しかしその後金正日総書記とプーチン大統領の関係はよく、朝鮮総連関係者によると会談の際、プーチン大統領は年上の金正日総書記のことを兄貴と呼んでいたと聞いたことがあります。ロシアにとって北朝鮮は、東アジアの玄関口として不可欠な存在です。不凍港の羅津港とハサンの間を鉄道でつなぎました。北朝鮮にとってもロシアはシベリアの伐採工など、貴重な外貨

を稼ぐ出稼ぎ労働者の派遣先です。

さらにウクライナ問題で両国はさらに接近します。「NATOは東方拡大を推し進め、欧州の安全保障環境を破壊してきた」と北朝鮮外務省は早々にロシア支持を表明しました。その後北朝鮮製の弾薬がロシアに渡っていると言われています。そして人工衛星技術などが欲しい北朝鮮。両国の思惑は一致しています。ウクライナ問題が長引くことで北朝鮮の軍事力はさらに上がる懸念があります。またコロナ後に北朝鮮を初めて訪れた観光客はロシアからでした。朝露関係は蜜月にあるといえます。

■他の国との関係

北朝鮮と国交を結ぶ国は約160か国。平壤滞在中、私は毎晩ホテルのバーに遊びに行くのですがエジプト人とよく話しました。彼らはエジプトのオラスコム・テレコム社の技術者でした。北朝鮮の携帯電話事業を提供する高麗リンク社は、北朝鮮の通信省とオラスコム社の合併企業ですが、3〜6か月交代で約20名のエジプト人技術者が平

壤に駐在していました。

なぜエジプトなのか。中東戦争です。中東戦争の際に北朝鮮空軍のパイロットがエジプト空軍に加わり戦いました。エジプト空軍の高位層がオラスコム社と関係が深く、北朝鮮の携帯電話事業に参入できたというのです。

バーではアメリカ人とも親しくなりました。彼はキリスト教の慈善団体の一員として、結核のラボを作るために訪朝していました。他にも平壤科学技術大学という、オール英語でIT関係の授業を行う大学にもアメリカは多くの教員を派遣していました。アジア・アフリカ諸国との関係は金日成主席の時代から長く、また金正日総書記の時代にはEU諸国と国交を樹立しました。700兆円ともされる豊かな鉱山資源を持ち、勤勉で教育レベルの高い安価な労働力。ひとたび開放されれば旺盛な消費が期待できる2500万人の市場は魅力です。世界はしたたかにダブルスタンダードで動いています。北朝鮮に制裁一辺倒で交流なしという日本は、世界的にむしろ珍しいといえます。

■ コロナ以前の国内政策と離隔と統制

北朝鮮はコロナ直前まで厳しい経済制裁をインバウンドで解決しようとしていました。世界レベルの規模の馬息嶺スキー場の建設（2013）、元山・葛麻観光地区の大規模開発を進めました。コロナ直前には軽飛行機で平壤上空を飛ぶ、平壤市内をサイクリングするなど非常に魅力的なプランが増えました。

私が2010年に訪朝した際、北朝鮮の案内員から面白い観光の企画はないかと聞かれました。北朝鮮の航空会社、高麗航空は、世界一危ない航空会社ともいわれますが、航空ファン垂涎の貴重な旧ソ連製の飛行機が多く残っています。この古い機体を中心としたプランなら、たくさん観光客が来るはずだよと提案したら、古い機体という表現がよくなかったようで渋い顔をされました。しかし2016年に北朝鮮は元山国際親善航空祝典というイベントを行います。そこでは古い飛行機の展示に加え航空ショーも行い、世界の

航空ファンが多く訪れました。この6年の間に、ちょうど金正恩時代の始まりとともに大きな価値観の転換が起こった。古いものをレトロと愛でる愛好者が世界にはいて、イデオロギーに関係なくお金を落とすことに北朝鮮は気づいたのです。その後、コロナの発生により外国人の観光はストップ。元山・葛麻観光地区の開発もストップしています。これは大きな誤算でした。

さらに米韓の政権が代わりバイデン大統領、尹錫悦大統領と、交渉しにくい相手になりました。北朝鮮は両政権と妥協を伴う交渉をするのではなく、核とミサイルを強化し、次回交渉局面になった際に強力で有利な交渉カードとしようと考えたのではないのでしょうか。同時にコロナ感染防止を理由に国境を封鎖し国内統制を進める、平壤文化語保護法と反動思想文化排撃法が成立しています。これらの法律は近年韓国ドラマ、K-POPが北朝鮮国内でも密かに流通し、その影響が特に若い世代のことばづかいやファッションにも現れているとされ、それらを厳しく



最近破壊されたと報道のあった祖国統一三大憲章記念塔（2010）

取り締まるものです。ことばを縛る怖さとその後の禍根の大きさは沖縄での方言札、皇民化政策で台湾、朝鮮半島で日本語の公用化を進めた歴史を持つ日本人ならよく知っているはずです。人類史においても大きな出来事が現在進行形で行われています。

さらにここ数か月で韓国への姿勢が変わりました。金正恩総書記自ら大韓民国、韓国と呼ぶようになりました。これまで北朝鮮で韓国という「南朝鮮です！」と怒られたものです。「現在は政

治的な問題、歴史的事情からやむなく分断しているがいずれ我々は統一する。韓国といういい方は、分断状況を追認するようではしからん！」というのです。2023年のアジア競技大会のサッカーの試合、朝鮮中央テレビの中継には「(北) 朝鮮 対 傀儡」と字幕が出ました。傀儡は韓国を最高レベルで侮蔑する表現です。この大会に同行した在日本コリアンの方によると、大会中南北選手間の関係は過去最悪で、南北間の選手間の会話、交流もなく、北の選手たちも韓国を傀儡と呼んでいたそうです。さらに統一を放棄する方針を表明し、韓国のことを第一の敵国とまで呼ぶようになりました。私の周りの多くの在日コリアンの友人知人も大きなショックを受けています。というのも、朝鮮総連関係者を含む多くの在日コリアンの出身地は朝鮮半島の南側、韓国です。ふるさとを敵といわれた衝撃。さらに日本国内では朝鮮総連と韓国民団は交流もあり、共同でイベントや運動を行うこともありました。これまでの関係や続けてきた交流事業はこれからどうなるのか。朝鮮総

連関係者も気をもんでいます。日本にも影響が及んでいます。

■ 北朝鮮経済を立て直すサンフレッチェ

2015年に北朝鮮南部の沙里院市を訪ねた際、地肌の見えた山と脆弱な堤防、底の浅い川を見ました。大雨が降れば洪水が起ころのは素人目にも明らかです。肥料の不足や種苗の問題など、北朝鮮の農業は一時的な天候不順によ



平壤の発展を象徴する未来科学者通り (2016)

る問題ではない構造的な問題を抱えています。もともと朝鮮半島北部は平地が少なく、寒冷な気候も相まって農業には不向きな土地が多く、それが北朝鮮の長引く食糧問題につながっていました。

2023年は豊作との報道が相次ぎました。穀物は目標の103% (朝鮮労働党中央委員会第8期第9回総会拡大会議より)。在日コリアンの北朝鮮経済専門家によると肥料の増産と、灌漑工事に軍を投入したことが奏功したと推測されるということです。ロシアの提案した食糧援助を断ったというタス通信の報道もあり、中国の劉国中副首相は2023年9月の訪朝の際「中国は今後農業と医療衛生の分野で援助を行いたい」と表明しています。食糧支援ではなく農業支援という表現に注目です。先の北朝鮮経済専門家の方によると中国支援農場という施設が北朝鮮国内にあり、ここをモデルとしてノウハウを北朝鮮の農場に反映させるのが農業支援の内容ではないかということです。農業の構造的な問題の解決ができれば、食糧難の解決も期待できます。

私は今、北朝鮮経済には追い風が吹いていると見ています。一つはウクライナ問題長期化に伴う特需。次に農業の構造的課題の解決への期待。さらに2023年8月に採択された観光法。より魅力的な観光プランを外国人観光客に提供できれば、インバウンドにより大きく経済状況は好転するでしょう。このサンフレッツェに注目していきたいと思います。

■ 日朝関係の未来

弾道ミサイルの発射の際に日本政府が「北京の大使館ルートで抗議した」と報じられることがあります。以前、朝鮮総連関係者に聞いたところ「北京の北朝鮮大使館に対してFAXを送っている」のが「北京の大使館ルート」で、北京市内で非公式に日朝大使館関係者が接触しているのではないのです。そして北朝鮮国内でも中国人観光客の悪口はよく聞きますが日本人はゼロ。「わが国」に來ないし話しかけてもこない。そんな日本人のイメージなんてゼロ」と厳しい一言を私に放ったのはホ

テルのウェイトレスさん。悪名は無名に勝るとはいいますが…。

なぜこうなってしまったのか。短期崩壊論への固執が原因ではないかと感じます。金日成主席が亡くなった1994年ごろから、北朝鮮は遠からず自壊するだろうという見方があり、私も当時そう考えていました。しかし北朝鮮の体制は今も続いています。2023年で建国75周年。金正日時代を経て金正恩時代も10年を超え金正恩総書記はまだ40代。さらに次世代の尊敬するお嬢様の姿を見るまでになりました。この実績は認めないといけません。その間北朝鮮は核保有国になり、日本抜きで米朝首脳会談も行いました。さらに2022年にアントニオ猪木氏、金丸信吾氏（金丸信元副総理の子息）と日朝関係のキーマンが亡くなりました。その後を担う人がいないことは問題です。北朝鮮の案内員の熱意も薄く「なんで日本語なんて専攻したのかな。中国語やロシア語を専攻した友だちは今、大活躍しているのに」と私に愚痴るほどです。彼らが北側の日朝交流の最前

線の存在というのは実に寂しいことです。そして日朝貿易もゼロ、すでに制裁の材料も尽きています。自壊するか日本の厳しい制裁と強い姿勢にいずれ「ごめんなさい」と頭を下げてくるだろうという楽観的な見通しに期待し過ぎたといえます。

岸田文雄総理は2023年「条件を付けずに金正恩総書記と向き合う決意」を表明しましたが、その直後岸田総理に会った方は「総理の熱意はあまり感じられなかった」と話していました。その時期に首脳会談を行っていれば、日本は衆議院解散に向けて岸田内閣の支持率の上昇が期待できて、建国75周年を前に人工衛星の発射を2回失敗していた北朝鮮にとってもいい実績となったのではなかったのかもしれませんが。中朝露の接近はより明確に、また強固なものになりました。アメリカに生活必需品の経済制裁を解除する代わりに、寧辺の核施設を放棄するような大きな譲歩を伴う交渉を行う必要性は薄くなりました。金与正副部長の最近の発言から日朝首脳会談の期待も膨らみ

ます。拉致問題抜き交渉の意味があるのかという疑問もありますが、行わなければならないと思います。

ただし行うべきは会談ではなく面談。即、劇的な成果を期待せず、今後10年先を見据え、失われた信頼関係の構築をしつつ、北朝鮮側の狙いを探り回数を重ねていく必要があります。個人的には在日ルート、例えば朝鮮学校への補助金停止措置の解消などを行えば効果的なシグナルとなると思いますが、今の日本の世論がそれを許すのかという懸念もあります。

■ 今、必要なこと

拉致問題以外にも問題はあります。日朝貿易債務。コリアン系の金融機関への公的資金投入。また最近では減りましたが、日本海沿岸に漂着する北朝鮮漁船の撤去費用は自治体が負担しているようです。さらに1995年に米を50万トン供与しているのですが、このうち有償分35万トンについて支払いは初回のみで以降元金、利子共に支払いはない状態です。

拉致問題だけではなくこれらの問題についても主張する必要があります。日朝交渉は想像以上に難航し、また拉致問題だけが問題ではないと改めて考えなければなりません。

私たちに今、求められているのは、北朝鮮がそう簡単には崩壊しないと認識すること。今の体制が当分続くと考ええることです。さらに日本のすぐ隣にあるのは「世界から孤立した、崩壊寸前の経済難のならず者国家」ではなく「中露の後ろ盾を持つ核保有国」。その前提に立ち、厳しい交渉や交流を行っていかねばならないと認識を改め、また覚悟を決めることではないでしょうか。

※写真はいずれも著者撮影。

(2024年1月25日・公開講演会)

著者略歴(きたおか・ゆう)

76年生まれ東京在住。韓国・梨花女子大学言語教育院修了。著書に『新聞・テレビが伝えなかった北朝鮮』(角川書店・共著)。

中学生時代に聴いた平壤放送をき

かけに北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国に関心を持つ。2004年から16年まで5回訪朝。16年は議員訪朝団引率。北朝鮮側から見学地の大幅譲歩を引き出す。

現在はRecord China ホームページでコラム連載。これまで『週刊金曜日』(金曜日)、『週刊SPA!』(扶桑社)、『Think Asia』(一般財団法人霞山会)にコラム多数執筆。在日系メディアの『朝鮮新報』、『月刊イオ』(朝鮮新報社)、『朝鮮商工新聞』(朝鮮商工新聞社)でも日本人として異例の連載を持ち読者から好評を得る。

また一般社団法人内外情勢調査会を中心に大学特別講師、専門書店、映画館でのトークライブ、日朝友好団体、朝鮮学校、民族派勉強会でも講演経験多数。さまざまな立場の多くの現地の人との会話、在日コリアンの視点を入れ北朝鮮の斬新な見方を伝える講演は好評を得ている。

福島原発汚染処理水放出差止訴訟について

——本当に放出しなければいけないのか

弁護士 河合弘之（会員）

A L P S 処理汚染水放出差止訴訟弁護団共同代表

私は「脱原発弁護団全国連絡会」という脱原発弁護士の会の共同代表をしています。このたび汚染水差止訴訟を起こしたその弁護団の代表・共同代表です。3人が共同代表になって戦いを始めたところです。

今日はその汚染水の問題について、汚染水放流の問題についてお話したいと思います。

1. 原子カムラの言葉狩り

初めに汚染水なのか、処理水なのかの話をしたいと思います。

東京電力や政府は、あれはもうA L

P S 処理をしたのだから汚染水ではない。だから、汚染水などというネーミングをする人とは話をしない。そういう態度を取り続けて、「処理水」だということを強調してやまないわけですが、これは「原子カムラ」特有の言葉狩りです。日本の原子カムラは言葉狩りをすぐくします。一番典型的で分かりやすいのは、「原子力発電」と言っ

て決して核発電とは言いません。しかし核兵器と原子力発電は同根ですね。爆発させるか、エネルギーをゆっくり放出させるかの違いで、核の本質は変わりませんが、核発電と言うと、核兵

器を連想して反対運動を引き起こす恐れがあるので、原子力発電と呼ぶことに決めたのです。

これは世界的に見ると特殊なことで、中国語では原子力発電とは言いません。核発電と言います。英語でも原子力発電所のことを〈nuclear power plant〉、原爆は〈nuclear bomb〉、核兵器は〈nuclear weapon〉と言います。だからアメリカやイギリスや中国の方は、核であることを前提にして話をする。ところが日本では言葉狩りをして国民を原発推進に向かわせようとしています。

今回も汚染水という言葉を使って記者が質問したらそれには答えない。そういう応対をしています。私たちはそういう論争に巻き込まれるのを避けるため、この訴訟について「ALPS処理汚染水差止訴訟」とネーミングしました。ALPS処理をしたことがうまくいったかどうかは別にして、ALPS処理をしたことは事実ですし、汚染水であることも事実だからです。

2. 政府はなぜ汚染水放出にこだわるのか

政府や東電はなぜ汚染水放出にこだわるのかという肝腎の話をします。それは建前を貫くためなのです。政府の建前とは次のような内容です。

あの過酷事故を起こした原発のデブリ、つまり燃料が溶けて固まって格納容器の底に溜まったり格納容器や原子炉圧力容器の周りにへばりついたりしているのを全部取り出し、それを一時的に敷地内の空き地に保管します。保管をして一定程度安全になったらそれを県外に運び出します。そして福島原

発は埋め戻して、芝生を張った綺麗な緑地にします。

これが政府の掲げる最終の姿なのです。それを絶対に崩してはいけません。原子炉から完全に放射性物質を取り出して安全な緑地にする。このストリーを建前として絶対崩せないから、汚染水がどんどん溜まっていくわけだけれども、それを放出して今あるタンクで間に合わせる。そして敷地内の空き地を将来デブリが取れたときの保管場所にするための空き地として確保しておく。このため今は汚染水を海に放出しないとタンクが満タンになってしまい大変なことになるとのことです。この建前というのも不可能なことを嘘で固めたストーリーであり、本当にデブリの取り出しができるのかというと、これはできないのです。

3. 本当にデブリの取り出しはできるのか

デブリは880トあると言われていますが、これまでそのうちの1トから2トしか取り出せていないのです。8

80トのうちの1トから2トですよ。その理由はものすごく強い放射線が出ているからです。ロボットを入れてデブリを掻き出そうとするのですが、強い放射線にロボットが破壊されてしまうことが繰り返されていて、全く見通しが立っていないというのが現実です。

当初はデブリを使用済み燃料が溶けて牛糞のように、格納容器の底に溜まっているものと想像していました。それだったらガバッと取り出せるはずですが、ところが実際は小爆発などが繰り返されたので、デブリは圧力容器や格納容器の周りにへばりついていて、さらにある部分は牛糞のように下に溜まっているという状態です。しかもこのデブリというのは地球上の固形物の中で一番硬いと言われるぐらい硬いので、これを完全に引きはがして取り出すことは不可能と実際には思われています。

でも政府や関係者は決してそのことを口にしません。人間の力、科学の力は無限だ、必ず取り出せるという建前を絶対に崩そうとしません。

ものが分かっている科学者は、あん

なの無理だ、とすでに言ってます。取り出すこともできないのに、取り出せると言って、それを取り出したら敷地内の空き地に一時保管する必要があるの、その保管場所を大きく確保しておく必要があります、そのためこれ以上新たにタンクを作れない。だから外に流すしかない、という建前を貫いています。

4. 原発敷地内に空き地はあるのか

この原発敷地内にさらにタンクを作って汚染水を溜めておくための空き地があるのかというと、実はあるんです。まだいっぱいあるんです。だから我々はそこに容量のもっと大きい頑丈なタンクを作って、そこにこれからの汚染水を貯めておけばいい。10年、20年置いておけば半減期が進み、放射線量が低くなります。半減期12年ほどのトリチウムにしても、それを待てばよく、何も今流す必要はない。しかし政府は、空き地はあるが、それは将来取り出したデブリを一時保管するために備えておく必要があるとして、新たな

タンクを作ることを拒否しています。

5. その空き地にデブリを置くのはいつか

ではその広大な敷地内の空き地にデブリを置くのはいつになるのかというと、880トもあるデブリから1、2割しか取れていない現状では、実際はデブリを取り出すことは永久にできない、と言えます。仮に取り出せたとしても40年、50年先のこと。つまり40年、50年先のために空き地を確保し、タンクを作らせないと、汚染水を海に流そうというのが、今政府がやっていることなのです。

6. デブリを県外に出せるか、どこが引き受けるのか

また政府は先ほどの建前路線でデブリを県外に持ち出せると言っています。が、栃木県に持ち出します、北海道に持ち出しますと公表したら、栃木県でも北海道でも、ものすごい反対運動が起こり、政治的にも実際にも不可能です。だからできないことを前提に

言っているのです。そのことを分かっているのに、こういうことを言うことは、本当に原子力行政の本質を示していると思います。デブリを県外に持ち出せることはあり得ない、言うべきだと思います。

7. トリチウムを無毒化できるか—40兆円

トリチウムを無毒化できるのかというと、実はできません。トリチウムを完全無力化するには40兆円かかると言われています。少し前までの日本の国家の一般会計予算が50兆円。一般会計予算1年分に相当するほどの途方もない金がかかるんです。

これは我々が言っているのではなく、経団連のシンクタンクである日本経済研究所が5、6年前に出した試算によるもので、トリチウムの処理で40兆円、その他の損害賠償、廃炉費用、さらに除染も入れると40兆円かかる。だから福島原発事故の後始末には80兆円かかるという試算を出しました。

それを聞いて政府も驚きましたが、

無視しました。ただ今から思うと、トリチウムの無毒化に40兆円かかるという試算には隠された目的があって、それほど金がかかるとなると無理だから諦めざるを得ない。海に流すことにしましょう、という結論に持っています。めの布石だったと私は思っています。

8. 汚染水放流より安上がりか

40億円↓数百億円（トンネルと構築物）↓+3000億円（中国輸入禁止補償）

政府が汚染水の放流を決めたのは、建前を貫くためであると同時に、当初は本当に安上がりだと思っていたからで、放流するのに40億円もあればできますよと言っていた。ところが、いきなりじゃぶじゃぶ流すわけにはいかない、ということと、1^キ先までトンネルを掘ってそこに出口を作り、一種の立派な構築物を作りました。それに数百億円かけています。だから40億円から数百億円にも上った。

そしてその上に中国の輸入禁止による補償などを含めて3000億円の損

害補償が予想されています。ということとは汚染水を流さなければ中国は輸入禁止をしなかった。その輸入禁止の補償のために3000億円を用意しなければならなくなった。少なくとも3000億円はその汚染水放流のコストだということですよ。安くできると思って始めたけれど、3000億円を使わなければならなくなったとは本当に見通しの悪い話です。

9. 敷地の外（中間貯蔵地）はタンクに使えないか

あの敷地の外には中間貯蔵施設というものがあります。中間貯蔵施設というのはどういう所かというと、高度に汚染されていてほぼ永久的に使用不可能な土地で、広大な、本当に見渡す限りの土地です。そこにタンクを置けば、いくらでもこれからの汚染水を貯めておけます。汚染水を貯めておくための土地は、敷地のすぐ隣に高度汚染地があるので、そこにタンクを作って貯めておけばいい、と私たちは提案しました。

それに対して政府や東電はどう言った

かという、それはダメです、放射能に汚染された物質は原子力発電所の敷地の外に出さないというのがポリシーです、だから敷地の外に汚染水を持ち出すなどと考えてはいけません、それが我々のポリシーです、と胸を張るわけです。ちょっと待てよ。海に流すのは敷地外に放射性物質を出すことそのものではないか。

10. 基準値以下に薄めればよいのか

では根本対策はどうすればよいのか。図1を見てください。

今の状態は、地下水が原子炉の方に

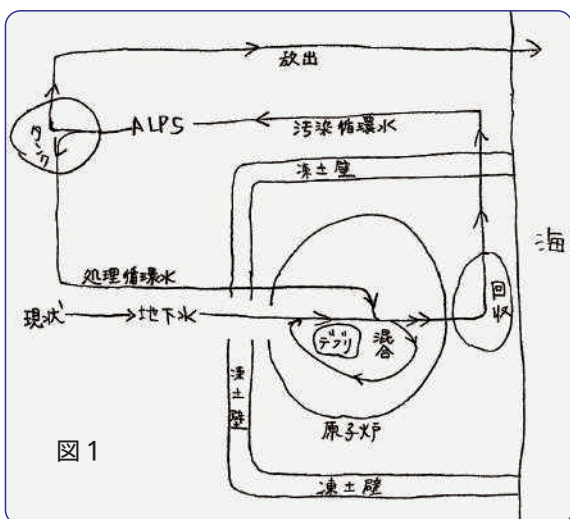


図1

流れ込んでいることを示しています。

凍土壁が原子炉を囲っていますが、凍土壁は完璧ではなく、約20%の地下水が原子炉に流れ込んでいます。そしてデブリに触れます。他方、海からは冷却水を取り入れています。冷却水が原子炉の中に入ってデブリを冷やしています。そうすると間違って流れ込んできている地下水と、海から取った正式の冷却水とが混ざってデブリを冷やしていることになります。そして大量の地下水プラス冷却水が回収されて、汚染水としてALPSに入ります。そして一応放射性物質を取り除いたことになってタンクに入ります。

そこには本来はトリウムしか入っていないことになっていますが、実際にはトリウム以外に取り損なったセシウムとかその他のまだ危険な放射性物質が入っています。それが処理水として放出され

ます。これが今やっていることです。

11. 根本対策は「島化」

ではどうしたらいいかというと、根本策は「島」にしてしまうことです。凍土壁ではなく、スラリーによる壁、もしくは鉄、コンクリートによる壁を、地中30m—40m—50mまで達する地下水の浸入を完全に遮断する壁を作ることです。そうすると、山の上から流れてくる地下水は原子炉の中には入れません。だから地下水はきれいな地下水のまま海に流れてゆきます。

他方、海からの冷却水を原子炉の中に入れ、デブリの周りをぐるぐる回して冷やし続けます。熱で水はある程度蒸発しますが、蒸発する分だけ海から水を入れて回していれば完結的に

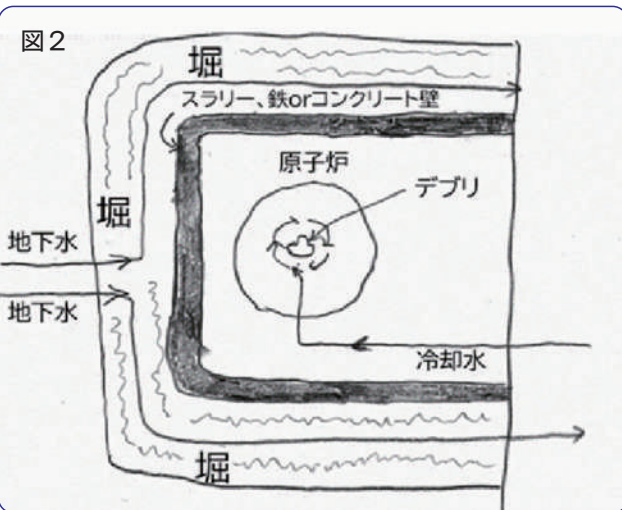
原子炉の中で冷やし続けることができます(図2)。

凍土壁をやらないで、これをはじめからやればよかったんです。でもこの案が浮かんたときに、そうだとすると大変なお金、数千億、まあ2〜3000億くらいかかると言われました。そうだとお金がさらにかかって東電の株価が下がって、東電が潰れてしまうかもしれない。だから当時はそんなにお金を使えないということで凍土壁案が出たのです。それが本当だったかどうか分かりませんが、非常に悪い手だったと思います。3000億かかろうと4000億かかろうと完璧な壁を作って島にしておけば、汚染水の放流問題はなかった。要するにそのようにすれば汚染水が増えることがなくなるわけです。

ですから今からでも遅くはないので、凍土壁をやめて鉄やコンクリートの壁で完璧な島にしてしまえばよい。そうすれば汚染水は発生しません。

12. 基準値以下に薄めればいいのか

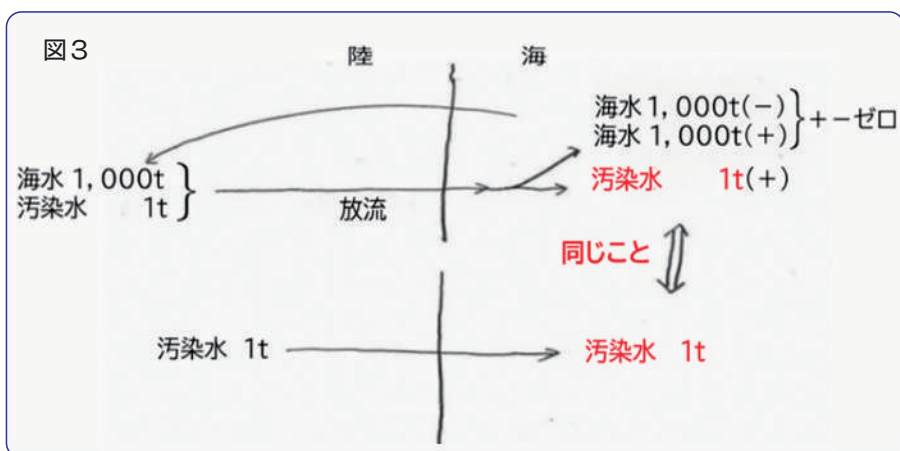
今やっていることの最大の問題点は



連日、汚染水を発生させながら、他方でその溜まっている汚染水を海に流すという矛盾した行動を捕っていることで、元の汚染水の量が定まらず増え続けるまま、流し続けているということ。汚染水の量が固定されれば、あとはいろいろな工夫ができます。

問題は基準値以下に薄めればいいのかということ。政府は基準値以下で安全なのだからいいんだ。しかもIAEAも基準値以下であると言ってくれたんだから、いいじゃないかと言って、海の水で基準値以下に薄めて海に流しているわけですね。

今やっていることは図3の上の部分で例示している



ように、まず海水1000tを海から汲み出して汚染水1tを薄めます。そしてそれを放流します。そうすると結果的にはどうなるか、というと海水を1000t汲みとって汚染水1tを薄めて1000tを海に戻すわけですから海水はプラスマイナスゼロです。何

が新しい現象として加わったかという、汚染水1tが海に加わった、

ということ。薄めていると言うけれど、海の水は1000tが取り出されたけれど1000tが元に戻っただけで汚染水1tが海に加わっただけ。そのまま薄めないで流したのと同じです。この説明をすれば子どもでも分かるような、子どもだましに思えます。

13. 過酷事故由来のトリチウムを流した国はあるか

それからあの過酷事故由来のトリチウム水を流した国があるかということなんですけれど、確かに通常運転で発生しているトリチウムを流している国はあります。でも通常運転から発生する放射性物質の中にトリチウムが含まれていてトリチウムを流しているという国はありますけれども、過酷事故由来のトリチウムを流した国はないんです。日本だけです。

通常の運転から発生する使用済み核燃料と事故によってぐちゃぐちゃになってデブリになってしまったものとは根本的に危険性が違います。それに触れた水の危険性も違うということで、ほかの国がトリチウムを流しているからといって、日本が過酷事故由来のトリチウム汚染水を流していることには全然ならないのです。

14. 日本の道徳性の放棄—国益を害する

それからトリチウムを流すということとはすぐく日本の国益を害していると思います。日本の国というのは世界か

らどういうふうに思われているかというと、ルールを守り、清潔好きな国民というふうに思われているんですね。だけれど今後40年にわたって汚染された水を平気で流し続ける、捨てるという道徳違反をする。これは公道にゴミを捨てるのと同じです。そうすると清潔好きでルールをきちんと守るはずの日本人って本当はこんなことするんだと、世界の人から嫌われたり軽蔑されたりすると私は思っています。

不道徳なことをしている国は、他国の不道徳な行為を非難することができません。例えばロシアがこの約20年前、老朽化した原子力潜水艦を公海に沈めてしまったとき、日本はロシアを口を極めて非難したのですが、そういう危険な汚染物を海に捨てるのは非常に危険でよくないと言って非難しましたけど、もう日本はそういうことができなくなると思います。自分が不道徳な行為をしてるわけですから。

中国やフランスもトリチウムを流してるから、日本も流していいんだみたいなことを言うところがありますが、

それは二つの意味で間違いです。

他国が悪いことをしてるから、自分も悪いことしていいんだというのは全然通らない道徳です。事故由来のトリチウム水と通常運転からのトリチウム水とは違うということもこの言い訳を否定する理由になると思います。

15・福島県民・漁民は二重の被害―過失と故意の違い

次に福島県民・漁民は二重の被害を受けたことについて述べてみたいと思います。福島原発事故によって福島県民や漁民は大変な被害を受けました。漁民は福島県沖で漁をするのを停止し、そして徐々に再開しながら、それも線量をよく調べながら、安全性を、基準値以下であることを確認しながら、捕って売るといいう仕事を徐々に復活させていこうとしていました。

そこでようやくある程度目処が立ったところで、トリチウム水をポンと流されたわけで、それによってせっかく目処が立ったがまた漁が再開できなくなり、また売りが伸びないとい

うことになったわけです。

放流直後は同情票みたいなのが集まったことで売り上げはあまり低下しなかったということが報道されていますが、そういう同情票みたいな効果はあまり長続きしないと思います。基本的にはやっぱりそのトリチウム水放流による被害というのはじわじわじわじわ出てくるというふうに考えます。

福島原発事故自体は重過失による被害です。わざとやったわけではなくて、非常に重大な過失、怠慢によって発生した、津波対策を全くしなかったことによって発生した、それでも過失による不法行為です。

だけど今度の汚染水を出すというのは悪意、故意による犯罪もしくは不法行為です。そういう意味で過失による、重過失による被害と故意による被害を福島県民、特にその漁民は二重の被害を受けていることになります。

これは例えてみると交通事故で人が跳ね飛ばされてしまい、倒れていたのがようやくよろよろと立ち上がって歩き始めたところ、後ろから飛び掛かっ

て、がっつり殴り倒すみたいな酷い行為だと私は思います。

16. 「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」約束はどこへ

政府と東電はトリチウムについて「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束をしました。それは文書にもなっています。でもそれは結局破られてしまいました。政府、国というのは約束を絶対守らなければいけないのに、平気で約束破りをしました。平気で政府が約束を破るというのはあの原子力ムラの世界独特の悪しき慣習だと思います。私たちはその約束違反というのも訴訟の中で厳しく追及していこうと思っています。

17. IAEAの実態は利権組織

政府がいわばおまじないみたいに言ってるのが、IAEAが「基準値以下で安全だ」と言ってくれた、だから安全だ、だから流していいんだ、とお守りのように言ってるわけですが、I

AEAという団体を簡単に信用してはいけません。

IAEA (International Atomic Energy Agency 国際原子力機関) は国連機関の一部ということになっていますが、その実態は国連というきちんとした組織の一部というに値しない利権組織だ、とご理解いただきたいと思っています。IAEAを組織しているのは核兵器を持っている国と原発を持っている国で、お金と人を出して原子力発電の推進・擁護・維持のために陰になり日向になって掩護射撃をしている団体です。

しかもIAEAにおける日本の力というのは大変強く、非常に大きなお金を投入し、財政的に支えています。人的にも非常に多くの人を出しています。人とお金を出しているところの言うことを聞くのが世の常。日本人が外圧に弱いのを読んでIAEAからお墨付きを取ればこっちの mond ということでIAEAに金と人を注ぎ込んで、私なんかの感じでは下書きまでちゃんと作って、こういうストーリーでこう

いうふうに言ってください、というふうに仕掛けをして得たのがあの基準値以下で安全ですというコメントだと思います。

しかもよく注意しなければいけないのは今日私が説明したような理由でトリチウム汚染水を海に流すことは間違いないんですけど、トリチウム水を流すことが正當かどうかということについてIAEAが意見を述べたり報告したわけではありません。そのことについて私たちは触れませんよ、とIAEAは言っています。そしてIAEAが言ったのは唯一、国際的に定められた基準値以下ですよ、と言ったにすぎません。だから基準値以下だから流していいのかというと、さっき言ったように他にやることのあるのに、流していいですよとIAEAが言ったわけでもないし、国民的合意が得られているからいいですよとか、ちゃんとした手続きを踏んですよね、とIAEAが言ったわけでもありません。IAEAは唯一「基準値以下ですね、基準値以下であるかどうかを今後もウォッチングし

ますよ」と言っただけです。だからあれはお墨付きでもなんでもありません。他に方法があるのかとか、こうしたらいいかとか、本当にそのトリチウム水を流した先に安全というのがあるのか、廃炉をちゃんとできるのか、そんな問題にはIAEAは全く踏み込んでいません。その点でIAEAの報告を金科玉条として流すのは論理的に全く間違いであると言えます。

18・国際法にも違反

核物質による汚染水を海に流しているのかというと、これは国際法にも違反すると言えます。ロンドン条約（廃棄物その他の物の投棄による海洋汚染の防止に関する条約）の1996年議定書というものがあり、それは汚染物を海に流してはいけません、ということを決めているんです。

だからロンドン条約に違反してるわけです。日本もこれを批准してます。だけど日本政府は、いやいやロンドン条約で決まっているのは海洋構造物を船から流してはいけないと言ってるだ

けで、今回流してるのは陸地からホースを出して、そこから流してるんだから海洋構造物から流したことはない、という屁理屈を言ってるんです。ですから裁判の中ではあの汚染水の放流のやり方は果たして海洋構造物からの放流になるのかどうかということが一つの争点になるわけですが、今回の放流のための施設を見ると陸地から1^キ先のところ立派な放出装置が付いていて一種のブロックみたいなのが築いてあって、そこにホースがつながれていてそのブロックみたいな構造物から汚染水が放流されるようになっているので、我々はあれは構造物以外の何物でもない。だからロンドン条約違反だと言っています。

それから国連海洋法条約というものがありまして、これに日本も入っています。それはどうなのかというと、海に汚染物を流してはいけない、という法律を各国は作りなさい、という立法義務を課した国際条約です。それについても日本はその義務を果たしていないと私たちは考えています。

こういうことで私たちは裁判を起こしたわけですが、要するにできないかもしれないことをストーリーに書いて、それを守ろうと誇示する、でもしないストーリーを作ってそれに執着しようとしている。そしてあの過酷事故は回復できるんだ、要するに廃炉はちゃんとできるんだという。できないことをできると言って原発が事故を起こしても最終的には安全に綺麗な土地に回復できるんだというストーリーを守るために、汚染水を流すというような違法な行為を強行しているんだということ、他にもいくらでも解決法はあるのに行きがかり上、こだわっているということになるんだと思います。

そして初めはうんと安く数十億円でできると思ったものが数千億かかるということが分かってしまったわけですが、今さら方針が変えられないというところで従来立てた方針に執着しているというのが現状だと思います。

ようよう
陶々俳壇

会
句
陶
結
果
2023年12月

兼題 「幻」

馬場由紀子

山鳩のくぐもる声や深雪晴れ 大内善一

◎由紀子
雪の積もった朝は眩しく深閑とした世界が
広がる。山鳩の声も含めて神秘的な句と
なっている。

◎明良
雪が高い音を吸収して鳥の声も違って聞こ
えるようです。雪の積もるころとなり銀世
界が陽光で輝き自然の音楽がながれている
ようです。

◎正子
雲一つない青空に山鳩の声が響く。雪に反
射して目ざしが眩しい。

◎紅杓
鳩は求愛行動や縄張り主張のために鳴くと
いう。しかし鳩は季節に関係なく繁殖する
ことが可能で決まった繁殖シーズンはな
い。深雪の静かなときの鳩の鳴き声はより
響きやすくよく聞こえることであらう。

茅葺の駅舎の囲炉裏湯が滾り //

◎正子
囲炉裏の火守りをする人もいるのでしう
ね。

◎紅杓
茅葺きの田舎の駅舎の暖炉、薪ストーブに
湯が煮滾っているのんびりとしたさまが浮
かぶ。

◎由紀子
北国の駅舎の景色。懐かしさに胸が締め付
けられそつだ。「湯の滾り」としても。

地方紙に里芋覗く宅配便 松島二三四

◎明良
上五「地方紙に」が素晴らしい。

◎正子
送り主は故郷の親御さんでしょうか。「里
芋」がいかにもこころ感じます。

◎善一
カピバラの至福柚子湯の贈り物 //

◎善一
南アメリカの森林地帯に生息する巨大なカ
ピバラ。日本の動物園で飼育され、そこで
柚子湯に入っている嘘のような、本当の
話。不思議な句だが着想が面白い。

◎正子
TVでも幸せそうな姿を鑑ます。林檎のお
風呂もありますね。

◎紅杓
世界最大級のネズミの仲間カピバラは南米
の温暖な水辺に生息している泳ぎの得意な
生き物であり、温水プールはまたとない贈
りものだ。

太陽の光背にある小春かな 橋本紅杓

◎由紀子
季節と太陽が付きすぎの感もあるが、小春
日の暖かさが気持ちよく伝わってきます。

◎二三四
ガザ非難幻影重なる戦後帰国 //

下五のリズムが気になりますが、現在進行
形の戦禍と満州からの引き揚げを重ねる句
は本句会ならではの、と思いたきました。

年の瀬や義母呉れし鍋頼もしき 日野正子

◎二三四
使いこんだ大きな鍋でおせちを作っている
景と読みました。その大鍋はお姑さんから
譲られたもの。味付けもお姑さん直伝かも
しれません。頼もしいのは、鍋でありお姑
さんと過ごした日々、絆の確かさでしょう。

◎由紀子
日本的な年の瀬の景となっている。懐かし
いような、でも私はいい嫁ではないからき
ちんとしたお節は作れないなあ。

咲き競い白と黄織りなす菊日和 //

◎紅杓
菊日和とは、菊の花が盛りのころ、菊の香
がしみ通るように澄んだ秋の日(仲秋)を
いう。白菊、黄菊の香が漂っている。

◎善一

破れ障子布団は厚き神無月 瀬崎明良

◎善一
木岐寒く鳴く鳥声も遠かりし //

旧満州幼き想い幻か 上野京

◎善一
私には記憶にさえないときでした。

●二三四
楽しい思い出しよう。こちらも善隣句会
ならでは。

珈琲を淹れても独り今朝の冬 馬場由紀子

◎二三四
朝のルーティンでコーヒーを一杯。その味
わいを誰かと分かちこともない。それでも
今日一日をしっかりと生きようと、立冬のき
りりとした寒さに響つのです。

◎明良
朝のコーヒーを一人で飲む苦みと温かさが
伝わります。

雨音を数へる風邪の目覚めかな //

◎正子
風邪を引いてしまったようだ。早めに床に
就き、よく眠って目覚めると静かだ。雨音
が聞こえる……。

湯煙や星の入東風吹かれ来て //

◎紅杓
「星の入東風」とは十月ころ吹く北東風
で、明け方昇が西天に没するころ吹く風と
いう。早朝の湯煙が東風に吹かれている紅
葉の山奥の温泉の景であらう。

◎明良
あちこちで湯けむりが上がる星空は羨まし
い環境です。

◎二三四
不勉強でしたが、「星の入東風」は昇がよ
く見える季節になると吹く北東風とか。露
天風呂で温まりながら冴え冴えとした星を
見上げているのでしょうか。「昇」を歌っ
た谷村新司さんを偲んでいるのかも。

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウエッチング

編・訳 上松玲子

収穫前取引が争いの種に

この数年、「青山」買いと呼ばれる新しい農産物取引モデルが見られるようになった。農家は収穫前の農産物を販売し、引き渡しまで栽培管理の義務を果たす。農産物の保存期間の短さに起因する売上の難しさの解決に有効な一方で、価格変動や大幅な減産の場合には、買い手と売り手の間で紛争が発生しがちである。

2021年11月30日、杜さんは全さんが育てる大根について「青山」買いで合意し契

約した。ところが同年12月全さんからの再三の要求にも関わらず杜さんは引き取りを拒否。2022年1月15日になっ

て、杜さんは大根に灰色のカビの斑点が見つかったと主張、電話で、契約の解除と契約金の返金を要求してきた。

第一審裁判で、双方の間で契約解除要件について合意があるものの、「灰色カビ斑」の定義については合意がなく、さらに、「灰色カビ斑」があっ

たことや当事者が契約解除に同意したという証拠を杜さんが提示できなかったことから、杜さんの受け取り拒否は契約

違反であり、商品の棄損や紛失のリスクは杜さんが負うべきと認定され、杜さんは残金の支払いを命じられた。

この判決は、農産物市場の安定と農民の正当な権利利益の保護にプラスの効果をもた

らしたと同時に、当該裁判所は管轄区域内の農民に標準化

されたモデル契約書の使用を推奨、市場の秩序と健全な発展に寄与した。

『新華ネット』2024年2月15日

ドアまであと少し

配送料も払い、届け先住所も間違いなく記入したのに宅配便が配達されず、近くの宅配ロッカーや受取カウンターに留め置かれ、配達を要求しても拒否されるなど、同意が

ないまま別の保管場所に置く行為は消費者から繰り返し批判されてきた。今後は同様の行為は厳罰に処されるかもしれない。交通運輸部門は「宅

配便市場管理規定」を改正、本年3月1日から施行された。配達員が依頼主の同意がないまま配達をしない場合、宅配業者が責任を問われ、最高で

3万円の罰金を科される。近年宅配便市場が急速に拡大し、取扱量は膨大になって

いる。だが、関連法規はあるものの、監督が行き届かず、一部の業者の違反を許す結果となっている。それらの業者は利益の最大化を追求するあまり点検やクレーム対応を軽視するなどコンプライアンスの重要性を無視した経営をしていると、北京安建法律事務所

の弁護士周兆成氏は指摘。利用者の権利に対する意識の欠如や消費者相談窓口の対応の遅さも要因になっている。新しい規則で「ラストワンマイル」の壁を破るには、多くの関係者の努力が必要だ。前述の周弁護士は、追跡機能付き包装やラベル、スマート宅配ロッカーやサービセン

ターを提案している。『央広ネット』2024年2月27日

オンライン恋愛か詐欺か

董さんと林さんはSNSで知り合った。林さんに好意を抱いた董さんは何度もSNSでギフトを贈った。知り合って1か月

後林さんは董さんをWeChatの連絡先リストに追加し、交際を続ける意向を示した。しばらくして、董さんは飽きて、ギフトに費やしたお金を取り戻したいと考えた。マルチ商法組織から抜け出したばかりで家に戻る旅費が必要だという理由で林さんからお金を借りたのを皮切りに、「交通事故にあった」「クレジットカードの支払い」、果ては「お金を稼ぐためにミャンマー北部に行ったが、犯罪組織に囚われて、金を払わなければ指を切り落とされる」などと連絡してきては繰り返しお金を要求するようになった。林さんは恐怖と同情心からお金を貸した。

董は返済もせず、林さんのWeChatアカウントをブロックした上で、別人を装って林さんに連絡し、彼女の携帯電話の位置情報やIPアドレスを把握していると言って脅迫した。林さんは恐怖から再び送金。この間2人が直接会っ

たことは一度もない。

林さんの通報を受けた警察は、董容疑者の情報を詐欺対策ビッグデータプラットフォームに入力した。2023年8月、天津市公安局警察署に董が自身のWeChatアカウントが凍結されたと届けたことから通報され、起訴された。

北京市西城区人民法院は先日、董被告について、詐欺罪で有罪と認定、懲役6か月、罰金5000元を言い渡した。『北青ネット』2024年2月28日

大人の少年宮を増やそう

大好評の「夜間芸術学校」に続き、「芸術自習室」が登場した。報道によると、浙江省文化センターは3月10日から、施設の空き時間を利用して週末の夜に、ピアノ学習室10室や書道学習室2室などを、「芸術自習室」として開放することになった。予約サイト開設後わずか数日で、主に20

代、30代の若者によりほぼ予約は埋まった。

多くの地域で、子どもに対する芸術教育や、「老年大学」をはじめとするシニアの文化活動は活発に行われているが、中間世代は長らく空白だった。大人の余暇がトラップや、飲酒、夜更かし、テレビ番組だけであってはならない。また、彼ら自身にも芸術を学び精神世界を豊かにしたいという現実的なニーズもある。プレッシャーの大きい現代人にとって、芸術は心に栄養を与え、ストレスを解消し、悩みを軽減する効果がある。浙江省などの地域では、大人が芸術を楽しむ、芸術を通して他人と交流できる環境が整備されており、支持を受けている。

また、これは公共資源の有効活用の一環でもある。近年、党と国家は文化インフラの建設を精力的に支援。各地で多くの文化センター、美術館、

図書館、博物館などの文化施設が建設、改築、拡張された。しかし、実際は休日以外の時間帯は利用者数の減少がみられ、資源が十分に活用されていない。その意味で新たな取り組みは、一挙両得と言える。

他の地域も検討するに値する。一方で、今後公共施設としてより公平に幅広い人々が利用できるような仕組み作りが必要だ。また、単なるブームに終わらないよう施設や講師陣への投資も重要だ。この試みが成功し、地方に広がれば文化資源の地域格差の縮小につながるであろう。

経済社会が一定程度まで発展すると、市民の文化的素養や芸術への関心と需要は高くなる。例えば、上海市は先頃、「文化サービスの日」を「都市美学教育の日」に格上げし、あらゆる年齢層の市民に美学教育を提供している。

『光明日報』2024年3月18日

2024年5月の行事予定

- 8日（水） 13：00 俳句会
兼題「水馬」及び当季雑詠から5句を投句（4月末までに）
- 9日（木） 14：00 公開 第4回対面&オンライン講演会
「世界議会—21世紀の世界統治と民主制」
横江信義氏（元通産研究所次長兼官房審議官、IEA 石油市場緊急
対策局長）
- 14日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）
- 16日（木） 14：00 公開 第5回対面 & オンライン講演会
「深刻化する空き家問題—『空き家対策特別措置法』改正を踏まえて」
牧野知弘氏（不動産実業家・評論家）
- 17日（金） 14：00 公開【21世紀アジア塾】〈旧【善隣中国塾】〉（対面のみ）
世話人：伊大知重男氏・村瀬廣氏（当会会員）
- 23日（木） 14：30 第13回定時社員総会
- 30日（木） 15：00 公開 第6回対面 & オンライン講演会
「会期末解散巡り、政局緊迫」
泉宏氏（政治評論家、元時事通信社）

5月の会議予定

7日（火） 13：00	国際交流委員会	22日（水） 13：00	東北委員会
14日（火） 13：00	環境委員会	23日（木） 13：30	理事会（第2回）
16日（木） 15：30	広報委員会	31日（金） 14：00	講演委員会（Zoom）

※下線は通常日程に変更あり。

【6月初めの講演会予定】

- 13日（木） 14：00 公開 第7回対面&オンライン講演会
「最近のベトナム事情」
矢代博昭氏（JICA 専門家）

みんなの 写真館

ISSN 0386-0345
二〇二四年（令和六年）五月一日・毎月一日発行

「善隣」第五四七号（通巻八一四）



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<https://www.kokusaizenrin.com>

発行所 〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三五七三三〇五（番代表）